

鷹取山自然観察会会報

2021.12.12 NO.34

かながわトラストみどり財団の植樹について

かながわトラストみどり財団の助成金により、鷹取山公園内にコナラ 18 本、クヌギ 18 本ガマズミ、キブシ各 7 本、計 50 本の植樹をしたので報告します。植樹場所は鷹取山公園の一部で、面積は約 100 m²です。

で運搬し、ポット苗は水を入れたバケツに浸してから、苗木を 1 本 1 本丁寧に植えました。その後、敷き藁を被せました。植樹当日は、かながわトラスト財団の看板を掲示し、皆で昼食をした後片づけ作業をして終了しました。



整地と穴掘り

9 月 24 日会員有志によりに草地の刈り取り、アオキなどの伐採を行い、その後、毎週 1 回程度の作業により植樹場所の整地を行いました。植樹は 10 月 29 日に 8 人が参加し、まずポット苗と敷き藁 50 kg、水まき用のポリタンクを背負子などにより植樹場所ま



植樹及び敷き藁

鷹取山では一昨年からカシノナガキクイムシによるコナラの立枯れが目立っています。原因の一つはコナラ、クヌギは薪炭材としての利用が行われずに大木となっていることです。ナラ枯れを防ぐ方法は、コナラなどの萌芽更新の促進といわれています。鷹取山自然観察会は、微力ですがコナラなどの植樹を通じて里山の環境を守っていければと思います。

植樹に当たって、公園使用許可及びかながわトラスト財団の手続き等に助言いただいた横須賀市自然環境共生課及び公園管理課に感謝します。

今後、草刈りなど維持管理に努め、10 年後にコナラ、クヌギなど大きく育つことを願っています。

参加者：本多久男、中村紀雄、北村一男、大澤美恵子、星野節子、菅沼桂子、市川 寛、村上良二（順不同、敬称略）



苗木の水やり



植樹後の記念写真



看板の設置

巣箱の掛け替え —令和3年11月—

1. 巣箱の掛け替え

当会では 2013 年から野鳥の保護を目的に毎年巣箱掛けを行っています。2013 年に 8 個、2014 年に 9 個を子ども達とイベントを開催して鷹取山公園にかけてきました。現在、16 個の巣箱が掛かっています。毎年、巣箱の掃除及び利用状況を調べ、再度巣箱掛けをしています。

今年は 11 月 19 日、10 時に鷹取山公園に会員有志 6 名が集まり、午後 11 時半まで巣箱の掛け替え作業を行ったので報告します。

当日は 2 班に分かれて、巣箱の利用状況を調べ、巣箱の中を掃除し、再び木に掛けました。巣箱の位置は地面から 2～3 メートルの高さで、周囲に枝がなくて見通しがよい場所としました。天敵のヘビなどに侵入されにくい場所を選定しています。

2. 利用状況

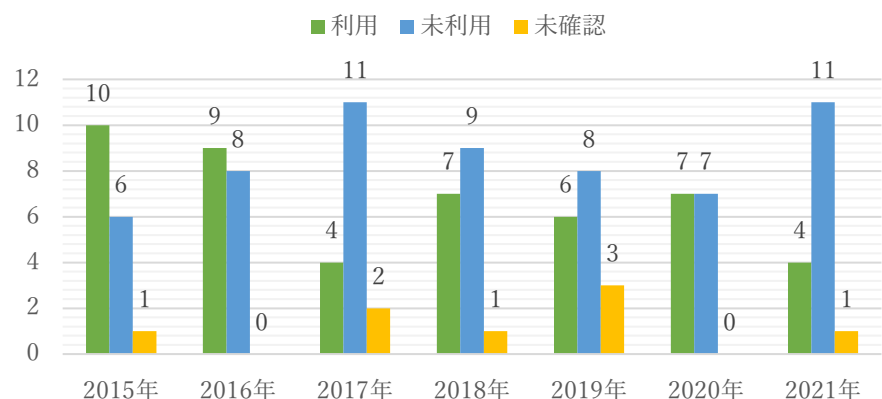
今年の巣箱の利用状況は、鷹取山北側では 7 個のうち利用は 0 個でした。摩崖仏側では 8 個のうち 4 個が利用されていました。

今年の利用率は 26.7% (2020 年 50%、19 年 42.8%、18 年 43.8%、17 年 26.7%、16 年 52.9%、15 年 62.5%) で、例年より低かったです。他の地域の巣箱利用状況などを調べてみると 30～50%程度です。鷹取山では、毎年利用している巣箱もあり、鳥にとって利用しやすい巣箱があるようです。



写真 1 巣箱の設置

巣箱の利用状況



3. 巣箱の中

巣箱は上蓋が開くように作っており、蓋を開け確認しています。巣の材料はコケが主体です。巣穴は直径 3 cm にしてあるので利用したのはシジュウカラ、ヤマガラのいずれかと思われます。写真 3 は巣箱一杯に詰まったシュロの繊維の下から、小鳥の巣として使われたと思われる苔が出てきました。何が起きたのか不明ですが、小鳥が巣立ちした後、タイワンリスが利用したと思われます。



写真2 巣箱の巣材



写真3 リスの利用した巣箱

して 12 月から第 1、3 金曜日に鳥類調査を行っていますが、巣箱の利用状況も継続して観察していきます。

巣箱の掛け替えに参加した人

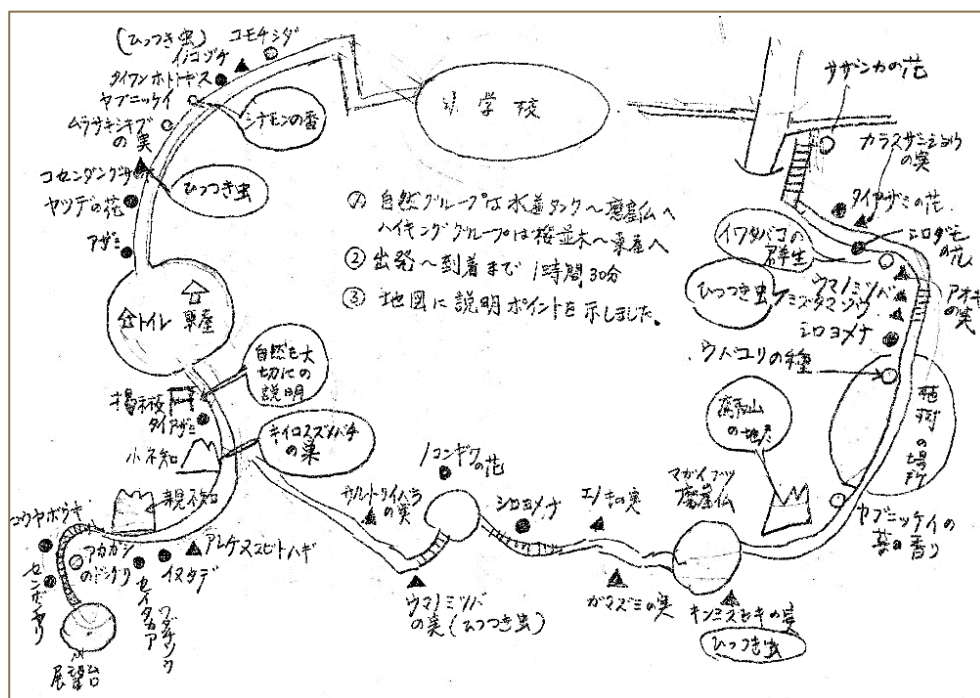
本多、中村、市川、三科、村上、北村（順不同、敬称略）

また、来年も鳥たちが巣箱を利用してくれることを願っています。会ではモニ 1000 里地調査と

鷹取小学校の自然観察について（報告）

「環境教育指導者」の派遣事業に基づいて鷹取小学校から当会に派遣依頼があり、実施したので報告します。鷹取小 4 年生は、総合学習の一環で

鷹取小デイサービスセンターとの交流を行っています。子供たちは身近な自然について調べたことを、高齢者にお話しする機会を持っているとのことです。



観察会は、11 月 10 日に実施しました。4 学年自然グループ 16 人、ハイキンググループ 11 人、4 班編成として 1 班 2 名で案内しました。

1 観察コース

観察コースは左図のように鷹取小～桜並木～東屋～展望台～磨崖仏～水道タンク～鷹取小です。自然グループは、鷹取小～水道タンクのコース、ハイキンググループは鷹取小～桜並木コースとし、約 1 時間半程度を観察しました。

2 観察方法及び観察のポイント

子供たちには鷹取山の自然観察ガイド秋冬編を配布して参考としました。ヤブニッケイ、カラスザンショウなどいくつかの匂いのある葉っぱを実際に感じてもらった。この時期は、特にドングリ、ヒツキムシなどを中心に観察し、子供たちの質問にも答えました。



<会員の感想・意見など>

○秋晴れの中、鷹取小観察会は全員ケガなく無事終了し安堵しました。夏に咲いたお花が、秋に実や種が出来ること等。特にヒツキムシは、実際にお友達や自分の服に付けたりし、興味深い様子でした。カラスザンショウ、ヤブニッケイ、リュウノウギクの香りを体験してもらいました。カラスザンショウは全員がレモン、みかん等柑橘類を上げていました。この観察会が季節を変えて実施することにより、植物の変化を実感していただけたらと思います。（星野）

○ハイキングチーム2班は男の子6人のチームでした、活発に動き回るので1ヶ所に集めるのに一苦労、花より実に興味があるようでスズメウリは取り合いです、カラスウリの赤い実を見つけた

人は自慢気だった、極めつけはウラシマソウの実を見つけた時は大発見で大はしゃぎ、これは毒があるから食べられないと聞くとガッカリしていた。活発な子供たちにふれ合えて、元気をもらいました。（村上）

○第3班（ハイキンググループ）は男子ばかり6名。さすが「市川先生」です。自分たちで花や実を発見し名前を調べるよう、じょうずに誘導してくれました。子供たちも記録係・カメラ係・どングり収集係・ひつつき虫係と役割分担。校庭に戻ってから、きょう見つけたものの名前を出し合っでちょうど午後3時。きっとデイサービスのお年寄りたちに楽しい報告ができることでしょう。（北村）

この観察会が季節を変えて実施されることにより、植物の変化を子供たちに実感していただけたらと思います。



参加者：本多久男、星野節子、三科清高、菅沼桂子、市川 實、北村一男、小池順子、村上良二（順不同、敬称略）

お知らせ

鳥類調査を開始します

鳥類調査に参加しませんか。当会では2014年から会員有志で鳥類調査を開始しました。2018年からはモニタリングサイト1000里地調査として、調査区間、調査期間・時間など大幅に変更しました。調査期間は比較的観察しやすい越冬期（12月～3月まで第1、3金曜日）、繁殖期（5月、6月の間3日間）で調査を行っています。鳥の名前がわからない方で



も結構です。散歩の途中で聞こえる鳥の鳴き声に関心を持つといいですね。

越冬期の調査は、午前9時30分に西友鷹取店前

集合。調査は約2時間です。なお、繁殖期の調査は早朝6時30分開始になります。

令和3年度横須賀いいね★エコ活動賞 の受賞

横須賀市環境企画課より通知があり、令和3年度横須賀いいね★エコ活動賞の受賞が決まったとのことでした。会の活動が表彰されるということで、次の日程で表彰式が予定されています。「横須賀い

ね★エコ活動賞」の詳細は横須賀市の記者発表資料に記載されています。

表彰式

日時 12月11日土曜日 13時～15時

場所 ヴェルクよこすか

(横須賀市立勤労福祉会館) 6階ホール

＜横須賀市記者発表資料から抜粋（一部省略）＞



YOKOSUKA NEWS RELEASE

令和3年度「横須賀いいね★エコ活動賞」受賞団体が決定しました（2021年12月3日）

横須賀市では、環境意識の向上や環境活動の活性化のため、市内の団体や学校等における「いいね★」といえる環境活動を「横須賀いいね★エコ活動賞」として表彰することとしています。

今年度は、学校等での1年以内の活動が対象の【学校短期活動の部】から4団体、市民団体や事業者、学校等の継続的な活動が対象の【一般の部】6団体の受賞が決定しました。

なお、表彰式は12月11日（土曜日）にヴェルクよこすかで開催する「よこすか環境表彰式」において行います。

受賞団体

学校短期活動の部

（4団体の団体名（賞名）及び活動概要の表省略）

一般の部

団体名（賞名）	活動概要
鷹取山自然観察会 【鷹取山自然環境保全賞】	鷹取山を「自然観察できる里山」にすることを目標に、自然観察会の開催、植物・蝶・鳥の定期調査、ガイドブックや会報の作成、鷹取山公園の掲示板を活用した自然情報の掲示・発信、広葉樹の植樹などの活動を行っています。
（以下5団体名（賞名）省略）	（以下5団体活動概要省略）

鷹取山の巨木 2報

会報33号で鷹取山の巨木を掲載しましたが、その後見つけた巨木を紹介します。今回は追浜駅から鷹取公園を通過して、湘南鷹取1丁目の斜面にあるコナラです。追浜駅からの自然観察会のコースで見られます。見るからに立派なコナラで存在感があり

ます。この近くには、大きな2本のシラカシがあり遠目にもよく目立ちます。

巨木の定義は、環境省が巨樹・巨木林の調査を行っていて、地上から1.3mの高さでの幹周りが3m以上の木を巨木としています。また、幹周り3m以上に育ちにくい樹種（サクラ属など）については、

幹回り 2m以上を巨木としています。この他、株立ちの木なども決まりがあります。



コナラ

湘南鷹取1丁目のコナラです。地上1m幹周囲は345cmで直径は1メートルを超える大木で、途中から株立ちしていて存在感があります。

鷹取山を散策していて、直径1mを超す巨木を見つけたら是非報告してください。



シラカシ

湘南鷹取1丁目にあるシラカシです。地上1m30cmの幹周囲は228cmと3mはないが、この辺りでは少ないシラカシで、大木が2本あります。

縁起の良い植物

友人が、「センリョウとマンリョウの違いがわからない」というので、センリョウは軽いので上に実が付き、マンリョウは重いので下に実が付くと教えたと、よくわかったと納得してくれました。昔から「千両、万両、有り通し」といい、「千両も万両もお金があり続けて困らない」という金運に恵まれることを願う庶民の思いを表した縁起の良い植物として、庭に植えたり正月用の飾りには欠かせません。さらに加えて、カラタチバナの百両、ヤブコウジの十両、そして「有り通し」はアリドオシで1両を表しました。

それぞれは冬に赤い実が付けることが共通で、赤は中国だけでなく日本でも縁起の良い色として神社の鳥居や仏閣に用いられ、めでたいときに食べる赤

飯にも象徴されています。以前台湾で富士山の写真展を行ったとき、朝焼けや夕焼けの赤い空の写真をことのほか喜んでいました。中国人には赤、紅は日本人以上にありがたがる色ようです。

「万両千両百両十両一両」という語呂の良い言い回しは、中国で葉が橘に似ているカラタチバナ（唐橘）を「百両金」と書き表すことが語源となったとされています。初めにカラタチバナを「百両」と名付け、それより実が2〜3個と少ないヤブコウジが「十両」となり、5〜10個と多いセンリョウ（仙蓼）が「千両」となり、横に伸ばした実柄の先に重々しく垂れさがるとくさんの実を付けるマンリョウが「万両」で、一個の実を点々と付けるアリドオシが「一両」となりました。



万両・マンリョウ
サクラソウ科ヤブコウジ属



千両・センリョウ
センリョウ科センリョウ属



百両・カラタチバナ
サクラソウ科ヤブコウジ属



十両・ヤブコウジ
サクラソウ科ヤブコウジ属



一両・オオアリドオシ
アカネ科アリドオシ属



ヒヨドリ
スズメ目ヒヨドリ科

鷹取山にはヤブコウジは尾根道のたくさんの場所に生えています。どちらかというと南側に樹があり北側が開けた明るい日陰のような所に多いのは、日陰を好む「藪」の名前通りです。センリョウとマンリョウは、何か所かに点々と生えています。それは野生でもともとあったものではなく、家の庭にあった実を鳥が食べて運ばれ芽生えたものです。カラタチバナはありませんが、横浜市南区にある弘明寺の参道にたくさん植えられているので見るができます。アリドオシは、神武寺の塀に沿って生えています。アリドオシにはオオアリドオシとアリドオシの二種類がありますが、神武寺のものはオオアリドオシです。赤い実のなる花はどれも白っぽく目立たず、初夏に咲きます。

虫の写真館

2021年9月12日(日)の自然観察会「鷹取山の秋の七草は何でしょう」に参加された大塚千賀子さん、竹之下香苗さんから、セミヤドリガの成虫の写真を送っていただきました。大塚さんが見つけれ、参加された皆さんで観察されたとのことです。

みなさんの家ではどうでしょうか。我が家にはセンリョウとマンリョウ、それにヤブコウジが今赤い実をたくさん付けています。隣の家では、センリョウにネットをかぶせて、鳥に食べられないようにしています。かぶせない我が家では、初めにセンリョウの実が無くなり、2月頃マンリョウの実が無くなります。それはセンリョウの実の方がおいしいからなのか、上から目立つからなのか疑問です。でも鋭いとげが生えているアリドオシは植えていません。縁起を担いで植えたわけではありませんが、我が人生でお金が全く貯まらなかったのは、「有り通し」を植えてなかったからなのかもしれません。

(市川 實)

セミヤドリガについては、会報25号に「気の毒なヒグラシ」という記事を載せました。セミの腹に寄生した幼虫は時折見られても、セミヤドリガの成虫に出会う機会は滅多にないと思いますので、是非、ご紹介したいと思います。



写真 1



写真 2



写真 3



写真 4

写真 1 は大塚さん、写真 2、3 は竹之下さんが撮られたものです。写真 1 では、セミに寄生して成長した幼虫が、セミから離れてシダの葉裏に白い繭を作り、中の蛹から羽化した成虫の様子が良くわかります。黒い地に青い小斑点がある翅の模様も綺麗です。写真 2 は、蛾を正面から見た写真で、触角が楕

状なのわかります。写真 3 は、シダに付いた繭や成虫の大きさなど、全体の様子が良くわかります。

様々な角度から昆虫を撮ると、昆虫の様子が立体的に想像できます。写真 4 は、会報 25 号で紹介したセミヤドリガに寄生されたヒグラシを、別の角度から撮ったものです。 (三科 清高)

鷹取山自然観察会 (ホームページを見て下さい)

HP : 鷹取山自然観察会

<http://takatoriyama.eco.coocan.jp/>

連絡先 : 世話人代表 : 本多久男 e-mail : takatori_0721@nifty.com